



家族のつどいについて

ふれあいデイ委員 西2病棟 三善 裕子



現在、日本の65歳以上の高齢者のうち認知症を患っている方は、推計15%で2012年時点で約462万人に上ることが厚生労働省研究班の調査で分かっています。

また、認知症を患う可能性がある軽度認知障害の高齢者が、約400万人いると推計され、65歳以上の4人に1人が認知症とその”予備軍”となり、政府は早急な対策を迫られています。

介護する側も高齢化しており、認知症若しくは、”予備軍”の方が介護している場合もあると言われていています。今後は、認知症に寛容な社会の構築が必要であると言われており、その中でもまず大切なことは、認知症を正しく理解し、多くの方が患っている方への「接し方」を知ることだと言われていています。

昨年9月に、2回目の家族のつどいを開催することが出来ました。まず大切なことは、今も昔も変わらず、「認知症は病気である」ということを正しく理解することと言われていています。そのことを目的として、大神先生より認知症について講演していただきました。家族からは、「分かりやすく、理解できた。もっと知りたい。」などの声が聞かれました。その後、ソーシャルワーカーから障害年金や介護保険などについて説明、病院以外の社会資源の紹介、活用方法など役に立つ情報を提供してもらいました。作業療法士からは、普段病棟で行っているリハビリの様子や、レクリエーションで気分転換を図っている患者さんの様子、文化祭、高塚参拝、お花見などの季節行事の様子をスライドを見ながら、説明してもらいました。

最後に、各病棟ごとに交流会を行いました。家族の思いや悩みなど、たくさんの意見交換が出来ました。涙ながらに入院するまでのことを話して下さった方も居り、私達自身も家族の思いを知ることが出来ました。

ご家族より、「また参加したい。病気についてもっと知りたい。今後のことを知りたい。」などたくさんの意見を頂くことが出来ました。

今後、日本だけでなく世界的にも認知症を患う方が激増することが予想され、世界規模での取組が必要と言われていています。本人の気持ちに寄り添った対応を心掛け、より良い関係を築いていきたいと思っています。家族のつどいを通して家族の思いや悩みを知ることが出来たので、患者さん、ご家族の思いを大切に、今後家族のつどいを行っていききたいと思います。



BPSDのある患者に対してお手玉療法を試みて



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス

<http://www.uenokoen-hospital.jp/>

E-mail

uenokoen-hp@giga.ocn.ne.jp



西1病棟 ケアワーカー

当病棟は、重度認知症疾患治療病棟で50名の患者が入院している。入院患者のBPSDとして、暴力行為、介護拒否、他患者とのトラブルが多く見られる。

お手玉は、大脳新皮質の活性化、左右の脳のバランスを整えたり、リズム運動などの効果があり、お手玉を短時間すると脳の前頭葉の血流が増えて活性化し、BPSDの軽減に効果があると言われている。そこで、私たちはそれらのBPSDがある患者4名に対し、実際にお手玉を行う事でBPSDが軽減するのではないかと考え実施した。4名中3名に関しては効果が得られなかった。しかし、1名に関しては効果が見られたため、考察を交えてここに報告する。

(患者紹介) 80代女性 アルツハイマー型認知症 HDS-R9点 ADL自立

日中は、穏やかに椅子に座り、他者と笑顔で会話していることもあるが、多動で徘徊していることもある。喜怒哀楽が激しく、急に立腹しスタッフに対して暴言、暴力行為、他患者とのトラブル、口論あり。立腹すると何を言っても聞かず攻撃的である。夕食前にそれらが多く見られる。開始時は拒否が見られたものの、10分間集中して行うことができた。2日目より自然に歌いながら始め、「昔は、4~5個使ってしよったんよ。」などの発言も聞かれた。4日目からは、椅子から立ち上がり一度に3つのお手玉を使ったり、片手で行ったり色々なお手玉遊びを自ら行うようになった。3日目より、右回し20回、左回し20回を歌いながら行い、失敗しても何度も挑戦するようになった。また、「この中身は小豆やろ?いい音がするね。」「手触りがいいね。」などの発言が聞かれた。

取組み開始後、夕食前に前述のBPSDが見られることは、週に1~2度に減少した。このことから、昔馴染みの遊びであるお手玉に触れ、そのことにより得た感触や楽しむことができる時間を得たことが、脳の活性化に繋がり、ストレスの軽減、BPSDの軽減に至ったのではないかと思う。今後も継続していきたい。

ありがとう

作業療法士 桑鶴 誠志

こんにちは西2病棟の作業療法士の桑鶴です。いつもは自分の感銘を受けた文章を紹介しているのですが今回は私が感じたことをお伝えしたいと思います。

先日、自宅にてお風呂に入りながら、仕事のことを考えていました。ある患者さんで大腿骨頸部骨折をされて、人工骨頭置換術をされ、その部位の脱臼のリスクがあるため、トイレに行かれる際には、私も一緒に介助をさせていただいていました。その時に「いつも、ごめんね、手をとっていそがしいのに…ありがとう」と言われました。その時私は「いえいえ、ありがとうは私の方ですよ。お世話をさせていただいてお給料をいただいているんですよ」と答えたやり取りを洗顔しながら思い出しました。

「ありがとう。」患者さんに今日1日にどれくらい言われたかな…?

松下幸之助さんの「ありがとう言う方は何気なくも言われた方はうれしい。」という言葉を出しながら数えてみると、少なくとも38回以上、自分が言ったのを数えるとその倍以上「ありがとう」という言葉を耳にしているのに気付きました。私たちの仕事というのは時に患者さんから、激しい言葉をかけられることもあります。たくさんの感謝の言葉を患者様からいただいているんだなあとしみじみと感じました。

私事ですが3月26日から東2病棟へ異動となります。東2病棟での勤務でも患者様からたくさんの「ありがとう」をいただけるよう、そして自分自身もたくさんのありがとうという感謝を伝えることができたらなあとお風呂に入りながら考えていました。